

ゼロカーボン推進 で復興まちづくり

福島・大熊町、大林道路

福島県大熊町と大林道路は、「ゼロカーボン推進による復興まちづくり」を進める。1日に吉田淳町長と黒川修治社長が連携協定を結んでおり、「路面太陽光発電システム」の現場実証を通じ、ゼロカーボンに寄与する再エネ発電の新技術の確立に向けて、連携・協力を進める。

「大熊町ゼロカーボンビジョン」を踏まえ、大林道路の技術や知見を生かして相互に協力し、ゼロカーボンの推進による復興まちづくりによ

て、大熊町の2040年までの脱炭素社会の実現を図り、持続可能な地域社会の先進モデルの形成に寄与する。

連携分野は、再エネ発電に



路面太陽光発電パネルの設置状況

関する新技術の現場実証、その他ゼロカーボン推進による復興まちづくりに関すること、期間は1日から25年3月1日まで。

現場実証は、役場駐車場のバス停に接する通路部分の路面に、路面太陽光発電パネル(48平方メートル)を設置しており、実際の発電性能を定量的に確認するほか、落ち葉などによる発電効率への影響や清掃頻度なども併せて検討する。道路としての見た目や車両走行時の音の聴こえ方、印象などについて、アンケートで確認する。発電した電気は、デジタルサイネージの電源として活用する予定だ。

